



国指定史跡「鳥取城跡」中ノ御門表門復元工事竣工式

鳥取藩三十三万石

大手門

創建四百周年

四百年の時を経て、再びひらかれし大手門



なかのごもんおもてもん

なかのごもんおもてもん 中ノ御門表門(大手門)の歴史と特長

鳥取城の大手門にあたる中ノ御門表門は、元和7年(1621)に藩主池田光政によって創建されました。享保5年(1720)の大火で焼失するも同年中に再建され、長きにわたり藩の威厳を示します。鳥取城は、廃城令においても軍事的利用価値が認められ存城となり、明治12年(1879)にはその役を終え、城内主要建物がすべて解体されます。このうち大手門は、明治8年(1875)に解体されました。

鳥取城大手門は、虎口を広くひらいた桁形石垣の幅いっばいに門を構え、左右の土塀を門の屋根と同じ高さまで立ち上げるのが特長です。これにより、鳥取城の正面玄関に「個性」を持たせています。

大手門創建400周年を迎える令和3年(2021)、10年に及ぶ発掘調査の成果とともに、工匠たちによる伝統技術を駆使することで、鳥取城全体の特長を最も良く示す江戸時代末期の姿で現代によみがえります。全幅は10.2m、全高5.0m。屋根には出土瓦に基づき精巧に復元された「葵紋瓦」が軒を連ね、全国12番目の石高を誇った鳥取藩の栄華を未来に伝えます。



慶應2年~明治4年撮影：鳥取城大手登城路(鳥取市教育委員会)

なぜ? 葵紋瓦の理由

鳥取藩の家紋といえば「揚羽蝶紋」が有名ですが、中ノ御門表門周辺からは「葵紋」の瓦が複数出土しています。「葵紋」といえば江戸幕府を開いた徳川家康の家紋であり、その使用は厳しく制限されていました。しかしながら、大手門を創建した池田光政の後に長く鳥取藩を治めた鳥取池田家の初代・池田光仲が徳川家康のひ孫にあたることから、鳥取藩は後に将軍家から養子を受けるなど江戸幕府とのつながりが深く、外様大名では唯一「葵紋瓦」の使用が許されていました。

【日時】令和3年3月13日(土) 午前9時30分 開式
【会場】国指定史跡「鳥取城跡」擬宝珠橋

鳥取市

式次第

1. 開式のことば
2. 市長あいさつ 鳥取市長 深澤 義彦
3. 経過報告 鳥取市教育委員会教育長 尾室 高志
4. 来賓紹介
5. 祝辞 鳥取市議会議長 寺坂 寛夫 様
6. 感謝状贈呈 設計・監理 株式会社文化財保存計画協会 代表取締役 矢野 和之 様
施工 戸田建設株式会社広島支店 支店長 武田 茂樹 様
7. テープカット
8. 開門号令 鳥取市長 深澤 義彦
9. くぐり初め
ご来賓、時代行列、一般観覧者の順でお進みください。

中ノ御門表門復元の概要

○事業経過	
平成17年度	保存整備基本計画策定
平成18年度	保存整備実施計画策定
平成21~29年度	大手門周辺発掘調査
平成25~26年度	大手門基本設計
平成27年度	大手門実施設計
平成26~27年度	文化庁復元検討委員会審査
平成30年度	擬宝珠橋復元工事完了
令和元年度	大手門復元工事着手
令和2年度	大手門復元工事完了
○事業概要	
工事額	約1億4,600万円
規模	全幅10.2m、全高5.0m(土塀を除く)
木材	ケヤキ(門鏡柱・冠木ほか) / 福井県、岐阜県 ヒノキ(門屋根材ほか) / 三重県、鳥取県 クリ(門控柱・土塀ほか) / 岩手県

特長 伝統技術を駆使し、江戸時代の城門を忠実に再現
発掘調査成果にもとづき、細部意匠を精巧に復元

